

幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

接続期カリキュラム研究推進地区連絡会より～横浜の幼保小連携トップランナーの取組に学ぶ！～

横浜市の幼保小連携の歴史は長く、昭和59年より幼保小教育交流事業は始まっています。

現在、幼保小連携に地区やブロックで取り組む事業には3種類あるのをご存じでしょうか。

1 幼保小教育交流事業(全区で実施)

18区それぞれに「幼保小教育交流事業地区実行委員会」を設置し、年間を通した子どもの交流活動や大人の合同研修会を通して相互理解を図り、子どもたちの育ちと学びを円滑につなげる。

2 幼保小連携推進地区事業(R6年度31地区)

近隣の園と小学校で連携推進地区を形成し、テーマに沿って3年間の継続研究に取り組みその研究成果を発信することで、市内の幼児教育及び小学校教育の充実につなげる。

3 接続期カリキュラム研究推進地区事業(5地区)

3年間の継続研究に研究推進地区で取り組み、地区の幼保小で連携して架け橋カリキュラムを編成・実施して幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図り、具体的な実践のモデルを示す。

上記1～3の事業のうち、2についてはこれまでに研究指定を受けていない地区を優先に取組をお願いしています。

3については、より積極的な取組によって、横浜市の幼保小連携のトップランナーとしての役割が期待されています。先日その5地区による連絡会が行われました。

6月に1年生全クラスでわくわくタイムやぐんぐんタイムの様子(学校探検・体づくり運動遊び・造形遊び)を区内の園・校に向けて公開しました。

授業後の意見交換や教科の専門性のある講師からの話で学び合いの時間をもつことができました。

初音が丘地区(3年目)



山元地区
(2年目)

(竹之丸保育園からの報告) 山元小の1年生と、6月から公園で会ったり互いに園や学校を訪問したりしながら交流を重ねています。何度も交流を重ねて次は冬の交流を楽しみにしています。



(鴨居保育園からの報告) 園と学校で職員が行き来し、子どもの姿を知って互いのカリキュラムに生かしています。小学校の生活科の授業研究会に保育園から参加して、園と同じように遊びの要素があるなと感じました。

「伝え合いが好きな子ども」「やりたいを実現したい子ども」を共通のキーワードとして、様々な活動に取り組んでいます。

東本郷地区
(2年目)



旭地区・並木第一地区(1年目)

交流の頻度や方法は様々ですが、ダンスや劇など、子どもの交流が進んでいます。今後はどうカリキュラムに生かしていくかが期待されます。